

～企業のPFASリスク管理を変える～

高感度・少用量
水中PFAS測定サービス



10mLのサンプルで高感度測定が可能！

お水の安心検査



水中有機フッ素化合物(PFAS)簡易郵送検査

製品サービス内容

採水量

10mL
(業界最小水準)

検出成分

PFOS
PFOA
PFHxS

検体提出方法

郵送
(ポストへ投函)

結果返却方法

受領後10営業日で
メールによる
結果通知(数値のみ)



※ 1リットルあたり 50ナノグラム
毎日2リットルを一生飲み続けても
健康への悪影響が生じないと
考えられるレベル

なぜ今、PFAS測定が注目されているのか

- ① PFAS（有機フッ素化合物）は、耐熱性・撥水性に優れるが環境中で分解されにくい。
- ② 国内外で河川・地下水の汚染が問題化。
- ③ 米国・EUでは規制が急速に強化、日本でも**2026年4月から水質基準項目に格上げ**。
- ④ 企業には、法令遵守だけでなくサステナビリティ対応・ブランドリスク管理が求められている。



[参考] 諸外国における目標値

国名等	PFOA 目標値	PFOS 目標値
世界保健機関(WHO)	100ng/L	100ng/L
米国(USEPA)	4ng/L	4ng/L
日本	50ng/L(PFOAとPFOSの合算)	

出典：環境省 PFOS、PFOAに係る国際動向（2023年7月31日時点）

PFASは“新たな環境リスク”から“経営リスク”へ

- ①水質汚染が顕在化した際の操業停止・ブランド毀損リスクは大きい。
- ②原材料・排水・製品水など「水」を扱う全業種で管理意識が拡大。
- ③ESG・CSR報告書における環境負荷情報開示も増加傾向。
- ④“出さない”“入れない”ためには定期モニタリング体制が必須。



SDGs
ESG

従来のPFAS測定(公定法)の主な課題

①大量の試料が必要

一般的にPFASの高感度分析を公定法で行う場合には最小1L、最大10Lの水が必要とされるため、**採水・輸送の手間が大きい。**

②人的運用コストがかかる

現地採水が必要な場合は**採水作業の人員派遣**によるコストが発生する。

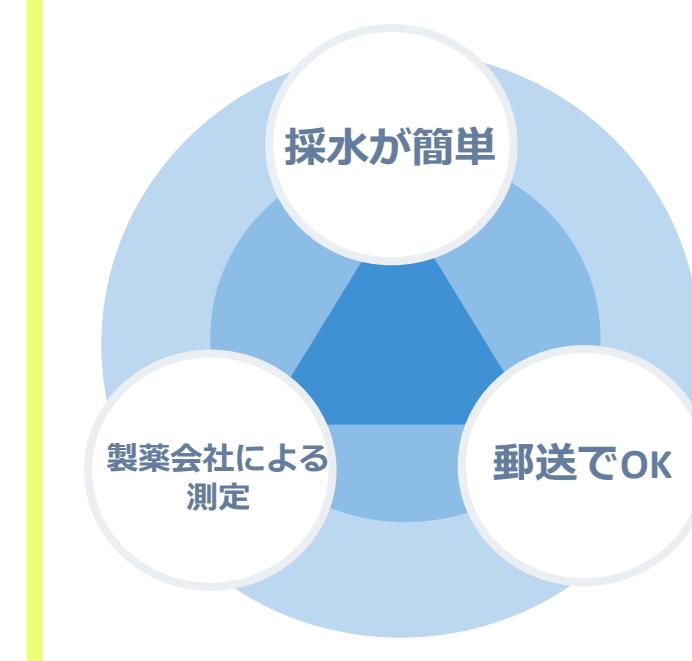
③検査体制の整備が必要

法改正により2026年から水道水のPFAS検査が義務化されるが、自治体や事業者の分析体制が未整備な場合も多い。また、**試料をすぐに検査できない場合は、冷蔵保存(4℃程度)を行う必要がある。**

④専門的な前処理が必要

固相抽出による濃縮・精製作業は手間が大きいため、**1検体あたりの処理時間が長い。**

当社のPFAS測定の強み



・採水が簡単

一般的なPFAS測定と比較し、ごく少量の水での測定が可能！

・製薬会社による測定

LC-MS/MSを用いた測定で、公定法との高い相関

・郵送可能

郵送での測定の為、採水してポストに投函するだけ

10mLの水で高感度測定 — 製薬会社品質の「水中PFASモニター」

- ① 10mL採水で測定可能（業界最小水準）
- ② LC-MS/MSを用いた高感度分析（検出限界0.05ng/L）
- ③ 郵送完結・受領後10営業日報告
- ④ 測定結果報告はメール対応
- ⑤ 公定法との相関性も確認済み（社内データ）



No.	測定項目名 (略号)	水 定量下限*
1	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)	0,05 ng/L
2	ペルフルオロオクタン酸 (PFOA)	0,05 ng/L
3	ペルフルオロヘキサンスルホン酸 (PFHxS)	0,05 ng/L

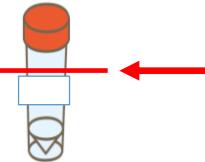
* 水10mL使用時

郵送だけで完結 — 採水から報告までの流れ

- ① 採水用スピッツを受け取る
- ② 10mLラインまで水を採取
- ③ 専用封筒で返送（ポスト投函）
- ④ 受領後10営業日で結果をメール通知

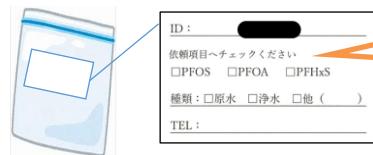
■ 採水方法と結果報告の流れ

- ① 指定の採水用容器（IDラベル付き）にて採水してください。



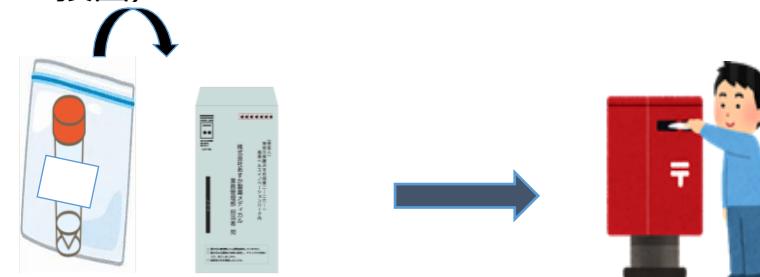
採水用容器に記載の**10ml**のメモリより上まで入れる。
しっかりとキャップが閉まっていることをご確認ください。

- ② チャック付き袋に入れ、測定項目に□と水種類を記載ください。



測定項目に□ ※ 2項目の場合は2か所に□

- ③ チャック付き袋に容器を入れ、専用の封筒で当社へ返送ください。
(ポストに投函)



※切手不要

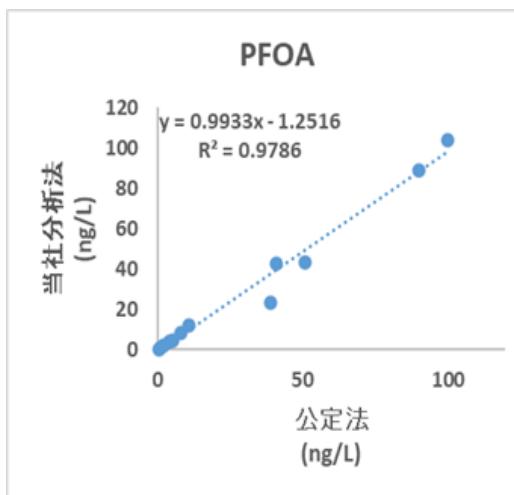
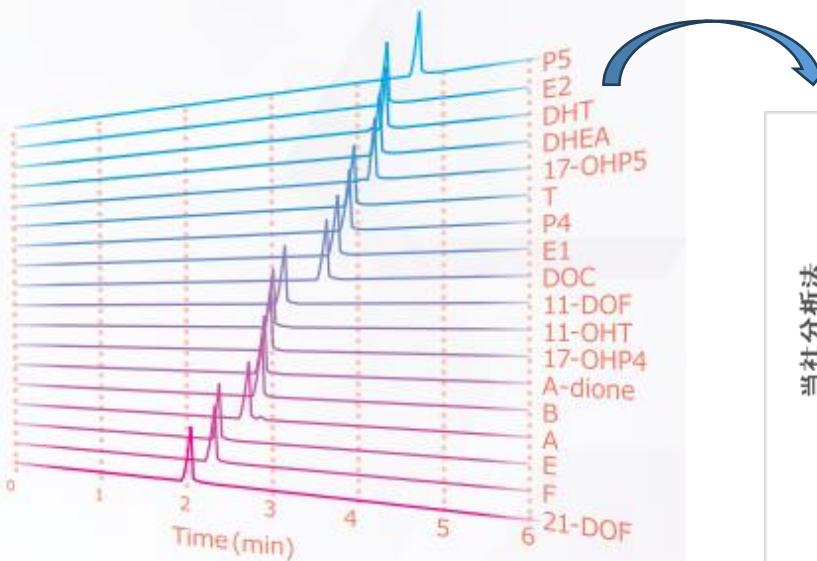
- ④ 受領後10営業日で測定結果をメールで通知いたします。

LC-MS/MS × 製薬由来ノウハウが支える信頼性

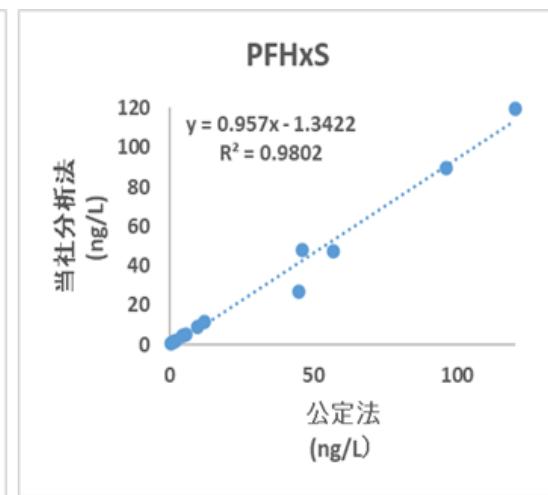
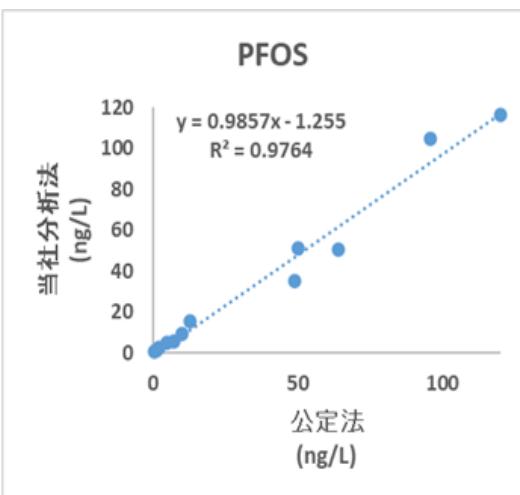
- ① LC-MS/MS (液体クロマトグラフィー・ tandem質量分析) による高感度・高再現性分析。
- ② 社内検証で公定法との**高い相関性 ($r = 0.98$) **を確認。
- ③ 小容量サンプルでも安定した定量が可能。

内因性ホルモンを特異的に測定する技術を応用

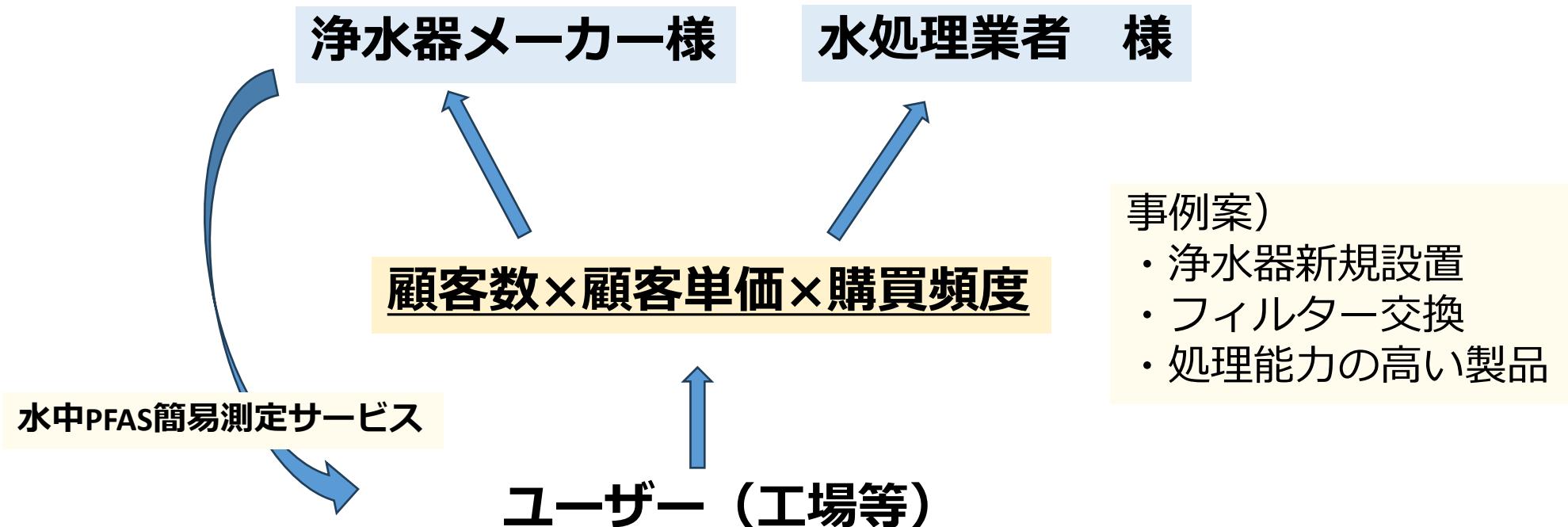
各ステロイドのクロマトグラム例



No.	検体名	PFOA(ng/L)	PFOS(ng/L)	PFHxS(ng/L)	備考
1	sample-1	0.08	定量下限未満	定量下限未満	
2	sample-2	0.49	0.36	0.25	



- ① **浄水器メーカー**：フィルター交換・除去性能の可視化により営業差別化。
- ② **水処理業者**：浄化能力の定量証明として提案力強化。
- ③ **宅配ミネラルウォーター企業**：水源・製品の安全性PRに活用。
- ④ **ゼネコン／環境コンサル**：土壤・地下水汚染のスクリーニングに利用可能。



「入れない・出さない」企業活動への第一歩

①浄水器販売時の水質チェック

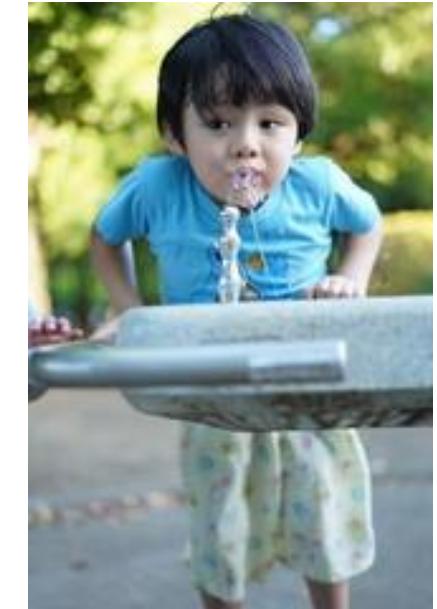
②工場・研究所の排水事前確認

③施設水道水の自己点検

④CSRレポート用データ取得

⑤保育園・私立小学校・医療機関など健康意識の高い施設での定期測定

⑥浄水機能のモニター活用として



よくあるご質問(FAQ)

- Q1. 公定法とどう違うのですか?
A. 法的提出用途ではなく、一次スクリーニング目的です。
- Q2. 採水のタイミングや水の種類は?
A. 生活用水・水道水・井戸水など。工業排水は対象外です。
- Q3. 結果の活用方法は?
A. 自社管理・取引先アピール・改善提案などにご利用ください。

まずはお気軽にご相談ください

製薬会社の独自の測定技術を通じて、水の安全性を支援します。

①企業の環境リスク低減

②自社サービスの信頼性向上

→ 導入相談・資料請求・サンプル希望は下記よりお問合せください。

問い合わせ先

あすか製薬メディカル 営業企画部

Tell : 03-5484-8307

mail : apmed-helthcare@ap-med.co.jp

